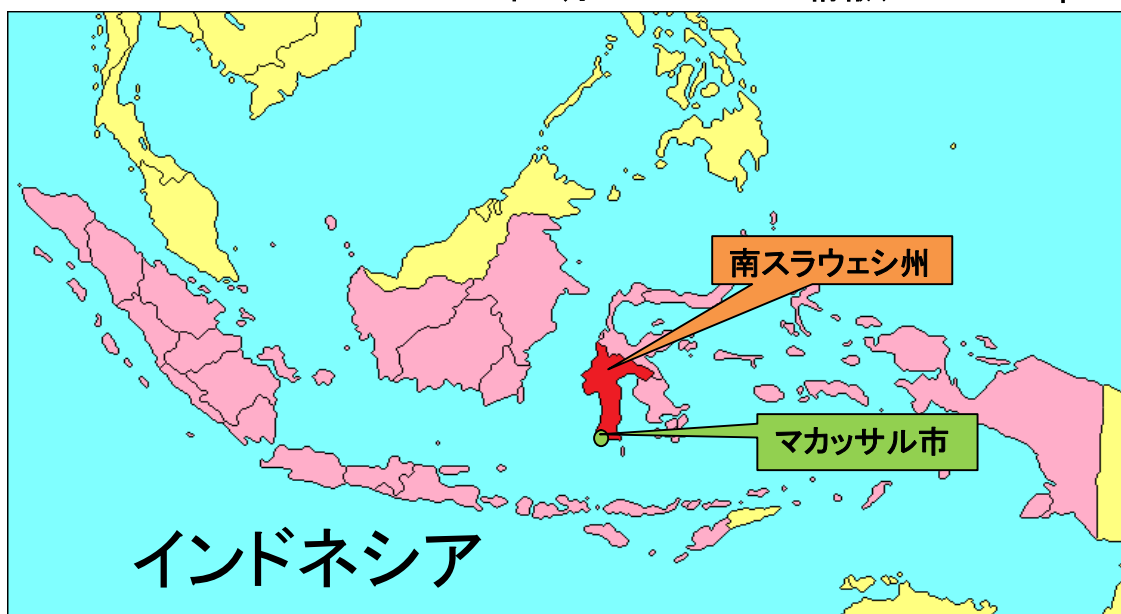


## インドネシアで鳥インフルエンザが発生

2010年9月30日 ProMED 情報(The Jakarta post)



南スラウェシ South Sulawesi 州の首都マカッサル Makassar 市の病院は、ピンラン Pinrang とソップン Soppeng の自治体で発生した、鳥インフルエンザウイルス(A/H5N1)疑い患者4名を治療しています。この4名中3名は子供です。9月28日夜に、患者4名は高熱、呼吸困難、および咳で入院しました。しかし、9月29日、鳥インフルエンザ治療のための定められた手順に従って感染症センターへ急送されました。現在、患者は検査結果がまたれています。

Pinrang 保健担当責任者によると、さらに発熱があった30名を調査したところ、そのうち3名に38°Cの発熱があり、呼吸困難、咽頭炎、咳の症状のため入院しました。患者3名の家の近くでは数十羽のニワトリが突然死んだということです。

地元の農産当局のデータによると、最近、Pinrang 自治体の7地区で、過去1週間に6,300羽のニワトリが鳥インフルエンザウイルスに感染して死んだということです。

〔ProMED 調整者〕

これらの疑い患者の確定診断の結果がまたれます。通常、インドネシアの地元新聞では、国内で多くの家きんの死と関連した同疑い患者の報道はありますが、ほとんど確認されていません。8月31日現在のWHOの公式発表では、2010年同国で患者6名(そのうち死亡患者5名)が確認されているにすぎません。